

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	心理学的支援法		
担当者(Instructors)	吉村 道孝	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

心理学的知識や技法を用いた支援方法を学習する。特に臨床心理学で扱われる心理療法技術を取り上げ、その成り立ちや理念、進行などを包括的に学ぶ。またそれらの支援方法が医療、教育、産業等の現場でどのように活用されているかを学習する。専門的な支援方法を学ぶと同時に、専門的知識・技法を日常生活でどのように応用できるかを検討する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式でおこなう。心理学的支援に関連する研究資料や視聴覚資料をもちいて、理解を深められるようにする。講義に加えて、グループやペアでディスカッションすることも多く、積極的な参加姿勢を求める。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	心理学支援とは	講義の進め方と心理学支援とは何かについて学習する。	<input type="checkbox"/>
第2回	心理力動論	精神分析から始まる力動的心理療法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第3回	行動論	学習理論を背景とした行動論について学習する。	<input type="checkbox"/>
第4回	システム論1	対象や家族をシステムとしてみることを学習する。	<input type="checkbox"/>
第5回	システム論2	要支援者をシステムとしてみたときの支援方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第6回	援助的コミュニケーションスキル	カウンセリングを行う際の注意点や留意点について学習する。	<input type="checkbox"/>
第7回	心理学的支援における価値と倫理	心理支援を行う際の倫理的配慮やプライバシーへの配慮について学習する。	<input type="checkbox"/>
第8回	認知行動論的心理支援	認知行動療法の理論と機能について学習する。	<input type="checkbox"/>
第9回	システムに対する支援	家族や職場などのシステムにアプローチする方法を学習する。	<input type="checkbox"/>
第10回	プレイセラピー	子どもに対する遊戯療法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第11回	グループセラピー	個人やグループで体験をすることでどのような内面的変容がおこるのかを学習する。	<input type="checkbox"/>
第12回	地域支援	地域のお仕事や、家族も含めた非専門家への支援や訪問支援について学習する。	<input type="checkbox"/>
第13回	周産期支援	周産期の女性支援、家族支援について学習する。	<input type="checkbox"/>
第14回	高齢者支援	高齢者支援特有の問題点や支援方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第15回	心の健康教育	心理教育や地域や学校での教育や啓発について学習する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習：授業開始前に、授業で扱われるテーマに関わる理論・実験・出来事についてインターネット等で調べてくる。(2時間) 事後学習：講義を受けて振り返り、興味のあるポイントをさらに深く学習する。不明な点は次回講義の小レポートに記載すること。(2時間)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回講義後に小テストもしくは小レポートを実施し理解度を確認する。次回の講義の冒頭で疑問点や課題を共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
--------------	-------------------	-----------------

思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	心理学を用いた支援法を説明でき、日常生活へ応用することができる。
-------------	---------------	----------------------------------

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 毎回、講義後に小テストもしくは小レポートを実施し、理解度を確認する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内容に応じて資料を配付する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		